

Best of ASCO 2017 in Japan 見どころ

山本 信之 BOA 部会長より

今年も 7/8（土）～9（日）東京ビッグサイトにて Best of ASCO 2017 in Japan を開催いたします。6/2～7 にシカゴで開催された ASCO2017 の選りすぐりの演題を、日本で聴取できる唯一の機会です。今年も講師の先生方と十分にディスカッションできる時間を設けるべく、プログラムを構成いたしました。ASCO に出席されなかった方はもちろんですが、参加された方も、ぜひ Best of ASCO 2017 in Japan にご参加いただきし、ASCO では聞くことのできない、重要な演題の我が国における臨床的意義等について話し合いましょう。皆様のご参加をお待ちしております。

Best of ASCO 2017 in Japan PV: <https://youtu.be/GKbk23XTyXY>

7月8日（土）

乳がん - Neoadjuvant / Adjuvant

13:45-14:25 講師：高野 利実（虎の門病院）司会：澤木 正孝（愛知県がんセンター中央病院）

乳がん - Metastatic

14:40-15:10 講師：鶴谷 純司（近畿大学）司会：佐治 重衡（福島県立医科大学）

ASCO2017 では、分子標的治療薬の第 III 相試験を中心に、多くの新しいエビデンスが報告されました。HER2 陽性乳癌に対する術後補助化学療法の新しい標準治療を提案する Pertuzumab の APHINITY 試験、ホルモン陽性進行転移乳癌の治療選択を大きく変える CDK4/6 阻害薬の 1 つ Abemaciclib の MONARCH-2 試験、BRCA 遺伝子変異のある HER2 陰性乳癌を対象にした PARP 阻害薬 Olaparib の OlympiAD 試験、さらに免疫チェックポイント阻害薬の乳癌での開発状況など、これらの結果とその実地診療への反映について BOAJ2017 で議論したいと思います。

肺がん

17:05-17:45 講師：後藤 悌（国立がん研究センター中央病院）司会：笠原 寿郎（金沢大学附属病院）

肺癌のセッションは 1 日目の最後に、非小細胞肺癌を対象とした EGFR 阻害剤(CTONG1104, ARCHER), ALK 阻害剤(ALEX), 血管新生阻害剤(AvaALL)の各分子標的治療薬の第 3 相試験の結果に対して、国立がん研究センター中央病院の後藤悌先生に鋭く切り込んで頂きます。とくに初回治療における ALK 阻害剤の選択、2 次治療以降における血管新生阻害剤の可能性は実臨床に直結するポイントですので、ご注目ください。

【Best of ASCO 2017 in Japan 詳細】

日時：2017 年 7 月 8 日（土）～9 日（日）

会場：東京ビッグサイト 会議棟 7F「国際会議場」

参加申込：2017 年 6 月 26 日（月）まで※

URL：<http://www.jsmo.or.jp/assembly/best2017/>

※ 当日の参加受付はございませんので、ご注意ください。



7月9日(日)

泌尿器がん

10:25-11:05 講師：松原 伸晃（国立がん研究センター東病院）司会：田畑 健一（北里大学）

泌尿器がん領域は、Prostate CancerとNon-Prostate Cancerを統合し、4演題を取り上げます。前立腺癌では、ASCO2017のプレナリーに採択されたホルモン未治療のハイリスク転移性前立腺癌に対してアンドロゲン遮断療法にAbirateroneを追加することの有用性を検証したLATITUDE試験、およびほぼ同様の検証を行ったSTAMPEDE試験をレビューします。

尿路上皮癌では、治療歴のある進行性尿路上皮癌に対するPembrolizumabの有用性を検討したKEYNOTE-045試験、腎細胞癌では術後の高リスク腎細胞癌に対するPazopanibの有効性を検証したPROTECT試験を取り上げます。今回のエビデンスにより“どのように日常診療を変えるべきか？”を皆様とディスカッションできることを楽しみにしております。

Patient and Survivor Care

13:20-13:50 講師：浜本 康夫（慶應義塾大学病院）司会：上田 弘樹（和歌山県立医科大学）

このSessionでも「共にがんケアの変革を」のテーマにふさわしい多くの発表がありました。

BOAJ2017で取り上げるのは、FDAから抗がん剤の臨床試験における高齢者の登録に関する過去10年間の分析(10009)、転移性骨腫瘍による脊髄圧迫への放射線の単回照射と複数回照射を比較する第三相試験(LBA10004)、外来化学療法中Webで症状の患者自己評価(PRO)をモニタリングするランダム化比較試験の全生存期間(OS)に関する報告(LBA2,プレナリー)です。

本邦でも課題である高齢者患者の抗がん剤によるケア、QOLを著しく損なう脊髄圧迫のケア、リアルタイムPROを活用した質の高いケアの導入の是非など、明日からの臨床現場にこれらのエビデンスをどう導入していくか全員で議論できればと思います。

消化器がん - Gastrointestinal Cancer

14:00-14:30 講師：谷口 浩也（愛知県がんセンター中央病院）司会：廣中 秀一（千葉県がんセンター）

消化器がん領域では3演題を取り上げました。

3505はBRAF-mutantの進行大腸癌に対するイリノテカン+セツキシマブ療法にBRAF阻害剤であるベムラフェニブを上乗せする意義をみるRCTです。

4004は切除可能胃癌に対する周術期化学療法として、欧州の標準的なECF/ECXに対してドセタキセルベースの3剤併用療法であるFLOT療法のOSにおける優越性を検証した第III相試験です。

そして、LBA1はIII期大腸癌に対するオキサリプラチンを含む術後補助化学療法を6か月から3か月へ短縮可能かどうかを検討した、日本を含む6か国でそれぞれ行われた第III相試験のプール解析です。

今後の標準治療が変わる可能性のある重要な試験が複数含まれており、是非、皆さんと議論を深めたいと思います。積極的な御参加を宜しくお願い致します。

【Best of ASCO 2017 in Japan 詳細】

日時：2017年7月8日(土)～9日(日)

会場：東京ビッグサイト 会議棟 7F「国際会議場」

参加申込：2017年6月26日(月)まで※

URL：<http://www.jsmo.or.jp/assembly/best2017/>

※ 当日の参加受付はございませんので、ご注意ください。

